



取り扱い講習後に行われた配布式

蘇生を図るAEDを17施設に設置

● 県市町村振興協会寄贈の自動体外式除細動器

心 停止状態の人に電気ショックを与え蘇生を図る医療機器「AED（自動体外式除細動器）」を町内の学校や公共施設、計17か所に設置しました。このAEDは、県市町村振興協会から寄贈されたもので、自動的に心拍数などを感知し、状況に応じて電気ショックを与える高性能機器です。

配布式が7月12日に本庁で行われ、浦田町長が「尊い人命を迅速な対応で守って欲しい」とあいさつし、施設代表者に手渡しました。



手作りで温かみある作品が並びました

1階フロアの一角を一般開放

● 方城支所趣味のギャラリー

方 城支所の空きスペースを一般開放した趣味のギャラリー「展示室」が7月からスタートしました。手芸や絵画など趣味のグループや個人から出品されたおおよそ50点を1階フロアに展示。観覧者アンケートでは「わたしも作ってみたい」「趣味を持つことのすばらしさを感じた」などの感想が寄せられました。8月は手作りイースの展示が予定されており、展示申し込みは方城支所の地域振興課で随時受け付けています。



本庁の庁議室で開かれた初回の委員会

財政基盤強化や合理化改革の方向性を審議

● 行財政改革推進委員会発足

委員は次のみなさんです（五十音順・敬称略）。青野義信（神崎 荒巻久美子（金田）・池長昇（神崎 太田淳三（上野）・須藤優子（金田）立花義廣（赤池）・中原和義（上野 長谷川浩（市場）・原田幸美（弁城）久富幹枝（弁城）・木田美津江（伊方）・松尾英俊（弁城）・安武憲明（上野）・森山浩一（県立大学）山尾勝子（上野）・山中文明（弁城 渡辺巧（神崎）

民や議員、職員など17人で構成する「福智町行財政改革推進委員会」が7月10日に発足しました。この日、浦田町長が二町長の諮問を受けた後、会長に森山浩一、福岡県立大学教授を選出。財政基盤強化や行政組織のスリム化、新町の今後の方向性やあり方についてなどの諮問内容と年間スケジュールを確認しました。今後、来年1月末までに答申をまとめるよう審議が進められます。

福智町では合併の利点を生かすための行財政改革が焦点になっており、人口と交付税の減少が進む中、自主財源をどう確保するかや、三百人を超える職員数の適正化、重複する公共施設の運営方法などについて話し合われます。

ただいま特訓真っ最中 燃やせ福智の消防魂

● 福岡県ポンプ操法大会出場へ



雨天でも第一分団格納庫前で息を合わせさせる選手たち

福 智町消防団が福岡県消防学校（福津市）で開かれる9月3日の県消防操法大会に、筑豊ブロックから田川郡代表として出場します。小型ポンプ操法の種目（第一分団（金田3〜6区）がエントリー。大会では4人がそれぞれの役割を担い、小型ポンプからホースを連結させて、的に放水するまでの速さと正確さを競います。選手たちは6月からおよそ週3日のペースで集まり、現在、厳しい訓練の真っ最中です。指導を受ける田川消防本部（田川市）では気迫のこもったかけ声が響き、機敏な動作で一連の操法が何度も繰り返されていました。

選手（補欠含む）は大井朋雄さん・吉田大さん・並川昌太郎さん・中村哲さん・吉田広志さん・熊谷博文さん・空閑一将さん・香月信二さん・湯川新一郎さん・坂田純平さんの10人。「大会まで残された1か月が勝負」と、流れる汗をぬぐいながら、またびたすりに訓練に集中しています。

日中は働き、夜に訓練という生活を送りながら、技術の向上を目指す選手たちに、みなさんの温かいエールをお願いします。



全田商店街の店舗を一軒ずつ訪問

人権尊重のまちを目指して

● 同和問題啓発強調月間「街頭啓発」

同 和問題啓発強調月間に合わせて7月3日に街頭啓発が行われました。スーパー方城、スパイ川食、金田駅前3か所で関係職員が啓発チラシとタオルを一ひとりに手渡ししながら行事への参加を呼びかけました。浦田町長は福智町のスローガン「人権のまちづくりは私たちの手で」が書かれたタスキをかけ、金田駅や金田商店街を回り、月間の取り組みをPR。このほか町内企業にも訪問し、差別解消への理解を求めました。



増便バスは既存の車両を使います

9月1日から町内全域を結ぶ

● 無料福祉バスを増便

住 民の移動手段と公共施設利用の向上を目指して、9月1日から町内を巡回する無料福祉バスを増便します。現在は従来どおり旧町の範囲内での運行していますが、この増便で初めて福智町全体を巡回することになります。町が社会福祉協議会に委託し、1日5便を運行。本庁や支所、診療所、福祉センター、温泉施設、駅など、主に公共施設間を結びます。詳しくは本紙に織り込まれている時刻表をご確認ください。